

人材育成（意識改革）と 査定の現状について



山口洋子 議員

【議員】分権時代の町長の職員育成方法は。

【町長】職員の育成はたいへん重要な課題であると認識している。町の育成方針に基づき、専門的な知識を習得するため、各種の研修に参加させる。住民自治をどう進めていくかという問題など課題は多い。

【議員】成果と査定の関係は。

【町長】努力すれば評価する。そうしたモチベーションを高める仕組みを検討している。

【議員】職員に生き生きと働いてもらう提案制度などの方策は。

【町長】やっている。昨年3件の表彰をした。

防災・防犯・福祉 の取り組みを地域で

【議員】自分たちの地域を観察し地図上に表すことは、地域を見つめ直し、地域のあり方を考え、地域の情報を共有するため

にも必要と思うがどうか。

【総務部長】災害に強い町は近所付き合いが活発だ。公助、共助、自助の役割分担も必要。地域での自主的なマップづくりは必要だと考える。

【議員】地域でマップづくりを行うよう指導を町でやるべきでは。すべてを地域に任せるのか。

【総務部長】行政で積極的に行うことは考えていないが、区・自治会会議で要請があれば相談は受ける。

【議員】福祉として重要な取組みだ。区で取組みが違うのはどうか。区長から申し出があればではなく、町として積極的に支援していくべきでは。

【総務部長】地域で特別委員会など作るという考えがあれば相談にのる。

東郷診療所の継続を



橋本洵子 議員

【議員】町長は診療所運営委員会へ①現状をどう改善するか②いこまい館へ移設した場合③廃止についての3点と聞くが。

【町長】決してあわてることなく答申を慎重に検討し、8月中には基本方針を出したい。

【議員】町内に医療施設も増え、経営形態として赤字も続いている。公営の診療所である意義は。

【健康部長】愛厚ホームへの訪問診療、産業医、学校関係等で、民間医療を補っている。

【議員】町内に20カ所の医療機関があるが、入院施設は少ない。診療所を廃止したら町内の中心に空白ができる。町民の安心は担保できるか。

【町長】入院設備がある大病院は近隣に多い。町バスの利用で町内にある医療機関にも行ける。診療所の患者数は平成20年度1088人で、平成17年度より200人減っている。

【議員】民間に比べて人件費が多いとある。継続するためには今後どのような方向でいくのか。

【町長】継続を前提とする場合は、人件費の削減、複合施設への検討、医療分業などの増収策や人員配置、診療時間の変更などを検討する必要がある。

特色ある 図書館づくりを

【議員】開館時間の延長の実現は。

【教育長】人件費、光熱費、防犯等問題はあるが、今年度は試行的に週1回の延長を実施してみたい。

【議員】指定管理者制度の導入は。

【教育長】他市町村では導入されている。導入できるか検討する。

【議員】他市町にない特色のある図書館として、子ども図書館の分離は。

【教育長】子育て支援に力を入れる考えだが、2カ所の経費は苦しい。